

片平丁小学校の取組



校内研究テーマ

伝え合う力を育てる指導の工夫

～説明する力を育てる国語科の実践を通して～

テーマ設定の理由

- 自分の考えをもつことができるようになった。
- 相手に分かるように伝えること。
- 考えを聞き合うこと。

伝え合うことに課題 → 説明する力を育てる

説明する力

身に付けさせたい力

- 1 記録する力
- 2 質問・応答する力
- 3 取材・構成する力
- 4 感想・意見を述べる力
- 5 連絡する力
- 6 説明・報告する力
- 7 紹介する力

説明する力		身に付けさせたい力	低学年	中学年	高学年	
1	記録	話を聞いて書く。	○	◎		
		聞き取ったことを短い言葉で書く。		○	◎	
		話の流れや中心が分かるように記号を使う。			◎	
2	質問・応答	相手に分かるように尋ねたり、答えたりする。		◎		
		質問や疑問を相手に分かりやすく尋ねる。		○	◎	
		質問や疑問に対して、相手に分かりやすく答える。		○	◎	
3	取材・構成	必要な事柄を収集する。		◎		
		内容によって分類する。		○	◎	
		必要な事柄を収集したり、選択したりする。			◎	○
		必要な事柄を整理する。				◎
		簡単な組立てを考える。		◎		
		段落相互の関係を考える。 全体の組立ての効果を考える。(引用・レイアウト)			◎	◎
4	感想・意見	感じたことを伝える。		◎		
		感じたことを交えながら、自分の意見を伝える。		◎		
		事象と感想・意見を区別し、伝える。			◎	
5	連絡	相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝える。		◎		
		内容を落とさず伝える。		◎		
		内容を落とさず、話の中心を伝える。			◎	
6	説明・報告	音声・文字言語以外の媒体も使い、効果的に伝える。			◎	
		事柄の順序を考えながら伝える。		◎		
		話の中心が分かるように、筋道を立てて伝える。			◎	
7	紹介	話の中心が分かるように、資料を使い筋道を立てて伝える。			◎	
		事柄の順序を考えながら、紹介する。		◎		
		事柄のまとまりを考えて、分かりやすく紹介する。 対象の特徴について事例を上げて紹介する。			◎	◎

説明する力

6年上巻

	1 記録	2 質問・応答	3 取材・構成	4 感想・意見	5 連絡	6 説明・報告	7 紹介
身に付けさせたい力	話を聞いて書く。	相手に分かるように尋ねたり、答えたりする。	必要な事柄を収集する。	感じたことを伝える。	内容を落とさず伝える。	事柄の順序を考えながら伝える。	話の中心が分かるように、筋道を立てて伝える。
続けてみよう							
カレーライス							
漢字の形と音・意味							
生き物はつながりの中に							
漢字の広場①							
短歌・俳句の世界							
暮らしの中の言葉							
ガイドブックを作る							
よりよい文章に							
漢字の広場②							
学級討論会をしよう							
森へ							
本は友達							
漢字の広場③							
船／りんご							
同じ訓をもつ漢字							
みんなで生きる町							
漢字の広場④							
日本で使う文字							

共同研究テーマとの関連

校内研究の視点

- (1) 「説明する力」を高める学習活動を工夫する。
- (2) 単元ごとに身に付ける力を明らかにし、年間計画を見直す。
- (3) 各教科等において、国語科で身に付けた力を意識し、活用の場を工夫する。

- 自分の考えをもつこと
- 表現すること
- 交流すること

思考

発信

交流

再考



実践例 国語科2年生 「ともこさんはどこかな」



実践例 国語科2年生 「ともさんはどこかな」

考えをもつ
思考

考える

付箋の活用

- ・ 特徴が分かる言葉や項目を思い出す。
- ・ 絵の中から、迷子にする子を選び、アナウンスの内容を考えて書く。
- ・ 付箋のメモをもとに、順序を考える。

表現する
交流する
発信・交流・再考

グループの活用

- ・ グループごとに問題を出し合う。
- ・ 大事なことを考えて少ないヒントで当てる。
- ・ 分かりやすいアナウンスをするために、気を付けることを話し合う。

実践例 国語科4年生 「伝え合うということ」



実践例 国語科4年生 「伝え合うということ」

考えをもつ
思考

モデルの活用

聞き合う

- ・ 発表のよい例・悪い例を聞いて見通しをもつ。
- ・ 聞き合う時の観点をもつ。

表現する
交流する
発信・交流・再考

グループの活用

カードの工夫

- ・ グループごとに発表を聞き合う。
- ・ 知らせたいことを中心をはっきり話している児童に発表させる。

モデルの活用



実践例 社会科5年生 「これからの食料生産とわたしたち」

考えをもつ
思考

- ・ 資料「食料が不足している国や地域」を見ながら、気付いたこと、考えたことをノートに書く。

表現する
交流する
発信・交流・再考

グループの活用

- ・ グループごとに発表する。
- ・ 代表児童が全体に発表する。
- ・ 栄養不足を解消するためにはどうすればいいのかを全体で話し合う。



実践例 算数科3年生 「かけ算のしかたを考えよう」

考えをもつ
思考

時間の確保

- ・ 23×3 の計算方法を、式や言葉、図等を使ってノートに書く。

表現する
交流する
発信・交流・再考

グループの活用

- ・ ペアで発表し合う。
- ・ 何人かの児童に、自分の考えを説明させ、全体で検討し合う。

成果と課題

(1) 系統性を意識した指導の必要性

国語科「説明する力」の年間計画の見直し

- 指導のポイントを再確認できた。
- 6年間の系統性を意識できた。
- 各教科等でどのように活用できるかを考えることができた。
- 「説明する力」における身に付けさせたい力は、国語科だけでなく各教科等においても大切な力となる。

取材・構成
感想・意見
説明・報告

身に付けにくい力
言語活動の充実を図る中で繰り返し指導する。

成果と課題

(2) 自分の考えをもつための手だて (思考)

- 考えたり，聞き合ったりするための視点
- モデルの効果的な活用
- 付箋の活用



- 児童が目指す方向を理解しやすくなった。
- 教師も指導のポイントを明確にすることができた。
- 順序や組立ての指導に，付箋が有効だった。

指導するための視点を具体的にもつこと



成果と課題

(3) 表現する・交流するための手だて (発信・交流・再考)

- 少人数グループ (ペア，4・5人のグループ)
- モデルの効果的な活用



- 全員が発表でき，繰り返し練習できる。
- 各教科等でも有効であった。

聞き合うことをもっと大切にしながら学習を進めること



次年度に向けて

- 説明する力を意識した授業実践をさらに重ねる。
- 各教科等において、言語活動の充実を目指す。
- 各教科等で、ランドデザインを生かし、系統性を踏まえた指導を行う。